学校（現育英高校）校主兼校長として後“池長美術館”を開設したことで有名な人．植物・昆虫の採集をして会下山に“池長昆虫館”をつくり昆虫・貝のコレクションを展示されたと．その後は池長美術館を作る方に発展された．この昆虫館のことは詳しくはわからないが大正６～10年（1917～1921）頃に作られたもののようである（1989年池長　孟の自伝が高見沢たか子著“黄金の港”（筑摩書房）として出版された．それによると会下山にこしらえたのは池長植物研究所でそれは一般に公開されることなく終ったようである）．

この当時の大変面白い記録が戸澤信義氏の御教示で知ることが出来た（私信）．即ち大正７年頃ＪＲ（当時は鉄道院）三宮駅（今の元町駅付近）の貨物掛に勤務されていた加古川在住の高田千万喜という人が駅構内で貨物からこぼれたものを採集された標本並びにその他の地で採集した標本を持参戸沢氏を訪問された由（その時の標本に基づいて野平安芸雄博士が昆虫学雑誌，第３巻，第３，４号，1919に短報を発表しておられる）．その中には烏原で採集されたキベリハムシの標本が数頭あったと（この記録は日本での本種の始めての記録であると考えられる）．駅構内での採集品の中にはダイコクコガネ，外国産の甲虫があり，インド，オーストラリア産らしい標本がありそれらが貨物からこぼれたものであるとのこと．当時の状況から外国産の昆虫が日本に潜入することが可成りあったのではないだろうか（日本に定着出来たかどうかは別として）．従ってこのような経過でキベリハムシが神戸に定着したのではないかと考えられ大変面白い記録である．尚同氏のコレクションは土地の素封家に譲られた由，一部は京都大学に売られたということである．

明治・大正時代の文献は充分見られなかったのでこの時代の兵庫県の昆虫研究史はこれ以上わからなかった．だが日本の昆虫学の発展も次第に調子をあげてきていわゆる昭和初期黄金時代に入ることになる．

兵庫県下でのエグリゴミムシの分布

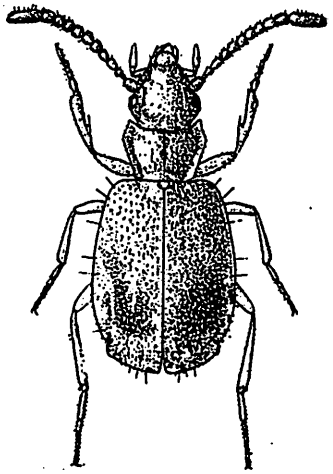
（兵庫県甲虫相資料・273）

高　橋　寿　郎

エグリゴミムシは G. Lewis が1896年 *Eustra batesi* Lewis として新種記載をされた（Ann. Mag.

Nat. Hist. Ser. 6. XⅦ: 330).

その記載文で九州で石の下とか朽ちた樹の樹皮下とかに普通におり，しばしば群居する．また Kashiwagi 及び Maiyasan near Kobe でも得たとある．即ち摩耶山は原産地の１つである．Lewis はさら Bates が *Eustra plagiata var. japonica* Bates, 1892としているが異なるとも書いている．*Eustra* plagiata Schmidt-Gobel とは異なるが現在は *Eustra japonica* Bates, 1892なる学名が用いられている．



エグリゴミムシ Eustra japonica Bates

図１．新昆虫，Vol. 15, No. 8, 1952より
エグリゴミムシ Eustra japonica Bates

兵庫県下では本種は広く分布しているように思うのだが今の所北部山岳地域からの記録が知られていない．現在わかっている県下の記録地と筆者の採集地とを此処に紹介しておく．

三原郡灘〔久松，1973〕．川西市笹部〔仲田，1982〕．神戸市摩耶山〔Lewis, 1896〕，木津（1ex.， 29－Ⅷ－1984）．多紀郡篠山町王池公園〔岸田，辻，1975〕．小野市山田（1ex.，7－Ⅸ－1987）．揖保郡新宮町福原（1ex.，15－Ⅶ－1992，3exs.，17－Ⅸ－1992），相生市三濃山（1ex.，3－Ⅴ－1974）．

兵庫県下でのモンキナガクチキムシの分布

（兵庫県産甲虫相資料・274）

高　橋　寿　郎

モンキナガクチキムシ（*Penthe japana* Marseul）（キノコムシダマシ科）は中型の甲虫で（10－14㎜）．黒色，前胸背板後縁と小楯板に金毛を有しわりと注意をひく甲虫である．雄の触角第５節は巾広くなっている．分布は北海道，本州，四国，九州，サハリンとなっている．兵庫県下からの記録はあまりないが恐らく県下に広く分布している種ではないかと思われる．1992年揖保郡新宮町福原でシイタケのホダ木に出来ていたカワラタケに多く見ることが出来た．此処に県下の記録地点と筆者の採